

( 麦 )

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

～今年の麦栽培上のポイント～

- 1、 「ミナミノカオリ」のタンパク含有率向上
- 2、 大豆後作の栽培管理
- 3、 スズメノテッポウ、カズノコグサなどの雑草対策

## 1 ミナミノカオリのタンパク含有率向上対策について

平成22年産ミナミノカオリの、カントリーごとのタンパク含有率（ただし、栽培面積1ha以上の生産者の平均値）は、

川口CE	10.1%
木室CE	10.9%
大木CE	10.1%
城島CE	9.6%

でした。ミナミノカオリのランク区分によると、タンパク含有率の基準値は、11.5%～14.0%です。JA福岡大城のミナミノカオリは、タンパク含有率が低く、城島地区では特に低い傾向です。

また、生産者間の差も大きく、穂揃い期追肥等の不徹底も見受けられます。

このため、タンパク含有率の向上を目指し、以下の栽培管理を徹底して下さい。

早播きをしない

- ・ 11月下旬以降に播種しましょう。
- ・ 早播きの問題点：初期生育が旺盛で、無効分けつが多くなる。  
：第1回目追肥が早くなり、結果的にタンパク含有率が下がる。

中間管理は早めに行う

- ・ 麦踏みは、麦の葉が3枚になってから行います。3月上旬までに3回以上行いましょう。
- ・ 土入れは、2月下旬までに終えるようにします。
- ・ ミナミノカオリの追肥には、効率的な肥効のグッドIB506を使いましょう。

穂揃い期追肥を行う

- ・ 穂揃い期追肥（実肥）は、タンパク向上に高い効果があります。散布方法は葉面散布でも可能です。その場合は、10aあたり尿素5kgを、100の水に溶かして行います。葉焼けが出ますが、登熟には影響ありません。ジェット噴口による葉面散布は、溶液の散布ムラが大きく、葉焼けが激しく出るため適しません。

## 2 大豆後作の栽培管理について

大豆後作の麦づくりは、水稻後作の場合に比べ地力窒素の影響が大きく、通常の栽培管理では倒伏を招きます。倒伏すると、品質が大きく低下するので、倒さない麦づくりを心掛けましょう。

### うす播きが基本

- ・播種量は水稻後作の場合より1kg減らします。具体的には、適期播種(11月20日～12月5日)の場合、10aあたり水稻後作では6～7kg、大豆後作では5～6kgの種子を播きます。適期播種ができず、作業が遅れた場合のみ、播種量を増やします。

### 基肥の減肥

- ・水稻後作にくらべ、10aあたりの基肥量を半分にし、過繁茂による倒伏を防ぎます。
- ・今年は基肥が変わりました。「ちくごのめぐみ422」といい、N-P-Kは、14%-12%-12%です。

### <シロガネコムギ>

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 (1中～下)	追肥2 (2下)	実肥 (穂揃い期)
1	ちくごのめぐみ422	40	-	-	-
	(大豆後)	20			
	グッドIB200	-			
2	ちくごのめぐみ422	40	-	-	10 硫安
	(大豆後)	20			
	NK7号 又は BB606	-			

### <ミナミノカオリ>

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 (1下～2上)	追肥2 (2下)	実肥 (穂揃い期)
1	ちくごのめぐみ422	40	-	-	(10) (硫安)
	(大豆後)	20			
	グッドIB506	-			
県基準 (参考)	化成484号	40	-	-	20 硫安
	NK7号	-	35	15	

### <はるしずく>

(kg/10a)

施肥例	肥料名	基肥	追肥1 (1下～2上)	追肥2 (2下)	実肥 (穂揃い期)
1	ちくごのめぐみ422	30	-	-	-
	(大豆後)	20			
	NK7号 又は BB606	-			

注意点（共通）

- (1) シロガネコムギとミナミノカオリでは、追肥の時期が異なります。第1回目追肥は、シロガネコムギは葉の枚数が5～6枚の時、ミナミノカオリでは1月下旬～2月上旬（できれば2月上旬）に行います。第2回目追肥は、茎立期（2月末～3月始）前に終わるようにします。
- (2) 倒伏しないよう、施肥量は地力により加減してください。
- (3) 酸性障害を防ぐため、前年石灰施用していないほ場では、10aあたり生石灰100kgを施用します。

3 雑草対策

各地でハーモニー剤が効かない、抵抗性スズメノテッポウが確認されており、広範囲で広がっているものと思われます。ハーモニー剤のみの使用は避け、土壌処理剤と合わせた体系で防除しましょう。また、播種前雑草が多い場合は、バスタ液剤、ラウンドアップなどを散布しましょう。

今回から新規薬剤であるボクサーを採用しています。乳剤のみの剤型となりますが、抵抗性スズメノテッポウおよびカズノコグサに高い効果があります。

	薬剤名	処理時期	10a使用量	留意事項
	バスタ液剤	播種前 播種後麦出芽前	300～ 500ml	播種後、雑草発生が早い場合 必ず土壌処理剤も散布
土 壌 処 理 剤	ボクサー（乳剤）	播種後～麦2葉期	400～ 500ml	降雨の前後は使用しない 麦の出芽後でも散布可
	クリアターン細粒剤F	播種直後～麦出芽前		播種後はできるだけ早めに散布する
	ガレスG（粒剤）	播種後～麦2葉期	4～5kg	降雨の前後は使用しない
	サターンバアロ粒剤	播種後～麦4葉期（スズメノテッポウ1.5葉期まで）		麦の出芽後でも散布可、 ただし効果は劣る

	薬剤名	処理時期	10a使用量	留意事項
茎 葉 処 理 剤	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期 （12月下旬まで）	4～5kg	この剤を使った場合、ハーモニー75DF水和剤は使えない
	ハーモニー75DF水和剤	麦1葉期～節間伸長前 （1月中旬～2月中旬まで）	5～10g	ハーモニー細粒剤Fを使った場合、使用不可
	エコパートフロアブル	節間伸長開始期まで （1月上旬～2月中旬ごろ）	50～ 100ml	ヤミグサに高い効果 イネ科、カスノコグサに効果無
	アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで （1月中旬～3月上旬ごろ）	100～ 200ml	広葉雑草に高い効果 イネ科に効果無

## 注意点

- ( 1 ) 液剤の希釈水量は、10 aあたり100 です。
- ( 2 ) 土壌処理剤の中には、麦出芽後の散布も可能なものがありますが、播種後早い時期に処理した方が、除草効果は安定します。
- ( 3 ) カズノコグサの多い場合は、土壌処理剤 + 1月上旬～下旬のハーモニー 75DF水和剤の薬剤体系防除と土入れを組み合わせで防除します。
- ( 4 ) ハーモニー細粒剤Fは残効が短いため、雑草発生始期に散布しましょう。

## 4 その他

シロトビムシ類による被害が拡大しています。下記薬剤を必ず使用しましょう。

対象病害虫	薬剤名	処理方法及び処理時期
ヤギシロトビムシ	アドマイヤー水和剤	乾燥種子重量の0.15%を粉衣する (種子10kg当たり15g)
裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%を粉衣する (種子10kg当たり50g)

大麦にアドマイヤー水和剤は使用できません。